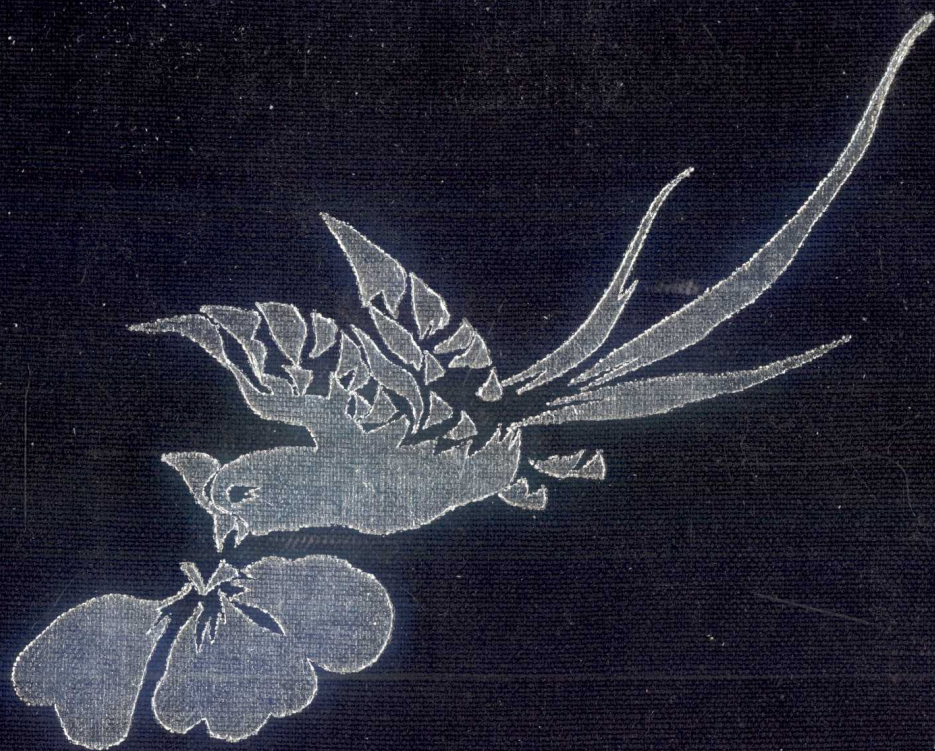




132293



日文 701739112

澤宮久孝

美華集注



卷之六

中央公論社

萬葉集注釋第六卷 奧附

昭和三十五年二月二十日初版 昭和四十九年九月二十日十六版

著者澤瀉久孝せもたかひまたか 發行者高梨茂 印刷者山田博 印刷所株式會社三陽社 東京都板橋

區板橋四丁目四七番七号 發行所中央公論社東京都中央區京橋二丁目一番地 振替

東京三四番

定價三千圓

本文抄造 三菱製紙株式會社

表紙麻布 望月株式會社

製本所 小泉製本株式會社

製函所 加藤製函印刷株式會社

凡例

一、原本の傳はらない古典の注釋の底本としては、その原本の時代に近い古寫本か、世に最も廣く行はれてゐる流布本か、いづれかが用ゐられがちであるが、兩者に一長一短のある事、他の古典の場合にも既に述べられてゐるところである。

私はその兩者の長を採らうとして底本の二本立といふ事を思ひついた。定本萬葉集以來、西本願寺本を底本とする事が二三の注釋書にも行はれてゐるが、それは廿卷完備した最も古い寫本としてうなづかれる態度ながら、西本願寺本と流布本とは大體系統を同じくするものであるから、私は系統を異にする古寫本と流布本（寛永本）とを照合して、兩者の間に異同がある場合はその正しいと認めた方を採つた。従つてそのいづれか一本が誤と明瞭に認められるものは一々注を加へない。その底本とした二本以外の諸本、諸注によつて訂正したもののみ注を加へた。たとへば沙とあるは二つの底本には「沙」とあるが、紀州本に「紗」とあるによつた事を示し、（定並）とあるは底本をはじめ諸本に「並」とあるを定本によつて「煎」と改めたものであり、（定並）とあるは底本に「嶋」とあるが、「孀」の誤と認むべきでないかと思はれるものである。

一、流布本と系統を異にする古寫本は殆ど廿卷完備したものなく、中には斷簡に過ぎないものもあるから、歌一首一首に

ついでどの古寫本を底本としたかを注記した。それによつてその歌の古寫本がどのあたりまで溯り得るかを明らかにし、訓詁の參考にすると共に、古寫本の新なる發見に備へる事も出來ようと考へたからである。たとへば原文の下に（類、六・六）とある歌は、桂、金、天、元等の古寫本は傳はつてゐない事を示すものである。それら古寫本の時代については正確には定め難いが、本書に底本とするに當つては次の如き順によつた。

桂、金、藍、天、元、金砂子切、類、古、紀、尼、嘉。

一、古寫本の校合は複製本のあるものはすべてそれによつた。複製本に漏れたものは原本によつた。その場合はその所在を明らかにした。陽明本と京大本とは著者みづから原本について校合を加へた透寫本（著者所藏）を用ゐた。冷泉本、金澤文庫本、細井本、大矢本は校本萬葉集の注記に従へた。

一、原文の文字は大體舊字體（當用漢字體に非ずといふ意味）を用ゐたが、誤字考察のたよりを考へて、原本又は原本に近き書體と認められるものはそれによつた。「尔」（六・五七）、「綱」（六・九三）、「礼」（六・三三）、「蒨」（六・九六）、「綱」（六・九七）の如きである。

一、原文の下の注記（類、十二・四六）は類聚古集第十二卷四十六頁の意であり、（古、五・二二オ）とあるは古葉略類聚鈔第五册十二丁表の意である。古葉略類聚鈔の現存の卷は八、九、十、十二と、卷名不明の卷との五册であるが、本書では複製本にかりに一、二、三、四、五と名づけられてゐるのに従つた。

一、本文に引用の萬葉集の歌には番號を記した。（四・五）とあるは卷四にある七七一番の歌である。卷數をあげないものはその注釋の卷の中の歌である。

一、萬葉集以外の歌集その他諸書の下の数値はすべて卷數を示す。日本書紀は卷數によらず單に神代紀上、神武紀などと

記した。古事記も中巻、下巻など書かず、神武記、仁德記などと記した。伊勢物語は池田龜鑑氏の校本にも採用せられてゐる天福本の段數をあげた。新撰字鏡は天治本によつた。享和本、群書類従本によるものは(享)(群)と注した。「倭名抄」と書いたものは倭名類聚抄十卷本であり、「和名抄」と書いたものは同、廿卷本である事を示した。高山寺本は(高)と注した。類聚名義抄は(佛、上)(法、中)など注したものは觀智院本である。色葉字類抄(上)(中)など記したものは三卷本(古典保存會刊)であり、伊呂波字類抄(一)(二)など記したものは十卷本(日本古典全集所收)である。

一、書名を省略して引用したものを左に掲げる。

桂	桂本萬葉集	王	傳王生隆祐筆本萬葉集
金	金澤本萬葉集	嘉	嘉曆(傳承)本萬葉集
藍	藍紙本萬葉集	紀	紀州本(校本に神田本とあるもの)萬葉集
天	天治本萬葉集	西	西本願寺本萬葉集
元	元曆(校)本萬葉集	細	細井本萬葉集
類	類聚古集	陽	陽明文庫本萬葉集(京都大學所藏。校本に溫故堂本とある親本)
古	古葉略類聚鈔	矢	大矢本萬葉集
尼	尼崎本萬葉集	京	京大本萬葉集(校本に京都帝國大學本とあるもの。曼殊院舊藏)
冷	冷泉本萬葉集	無	無點本萬葉集
文	金澤文庫本萬葉集		

附	附訓本萬葉集			動植正名	萬葉古今動植正名	山本	章夫
寛	寛永本萬葉集			美	萬葉集美夫君志	木村	正辭
仙	萬葉集註釋 (仙覺抄ともいふ)	仙	覺	文字辨證	萬葉集文字辨證	木村	正辭
拾	萬葉拾穗抄	北村	季吟	字音辨證	萬葉集字音辨證	木村	正辭
管見	萬葉集管見	下河邊	長流	訓義辨證	萬葉集訓義辨證	木村	正辭
代	萬葉代匠記 (引用にあたり平かなを用ゐたものは初稿本、 片カナを用ゐたものは精撰本)	契	沖	新考	萬葉集新考 (安藤野雁と井上通泰と兩氏に同名の著書があるが、 安藤氏のものとは引用するところが少く、單に新 考とあるは井上氏のものである。それも歌文珍 書保存會刊行のものと國民圖書株式會社刊行の ものとあり、主として前者によつたが、「増訂」 と記したところは後者によつたものである。)		
童	萬葉集童蒙抄	荷田	信名	増、選	増訂本萬葉集選釋	佐佐木	信綱
考	萬葉考	賀茂	眞淵	口譯	口譯萬葉集	折口	信夫
槻	萬葉集槻乃落葉	荒木田	久老				
玉	萬葉集玉の小琴	本居	宣長				
略	萬葉集略解	加藤	千蔭	總索引	萬葉集總索引	正宗	敦夫
檜	萬葉集檜婦手	橘	守部	新講	萬葉集新講	次田	潤
攷	萬葉集攷證	岸本由	豆流	新訓	新訓萬葉集	佐佐木	信綱
古義	萬葉集古義	鹿持	雅澄	講義	萬葉集講義	山田	孝雄
註疏	萬葉集註疏	近藤	芳樹				

新解 萬葉集新解
新釋 萬葉集新釋

武田 祐吉
澤瀉 久孝

(伊藤左千夫氏にも同名の著がある。その場合は著者の名をあげた。)

私解 萬葉集私解

花田比露思

綜合研究 萬葉集の綜合研究

折口信夫
窪田空穂その他

全釋 萬葉集全釋

鴻巣 盛廣

難語難訓攷 萬葉難語難訓攷

生田 耕一

秀歌 萬葉秀歌

齋藤 茂吉

評釋篇 柿本人麿評釋篇

齋藤 茂吉

雜纂篇 柿本人麿雜纂篇

齋藤 茂吉

新見 萬葉集新見

森本 治吉

講話 萬葉集講話

澤瀉 久孝

古徑 萬葉古徑

澤瀉 久孝

作品と時代 萬葉の作品と時代

澤瀉 久孝

新校 新校萬葉集

澤瀉 久孝
佐伯 梅友

定本 定本萬葉集

佐佐木 信綱
武田 祐吉

染草考 日本上代染草考

上村 六郎

植物新考 萬葉植物新考

松田 修

動物考 萬葉動物考

東 光治

續動物考 續萬葉動物考

東 光治

全譯 全譯萬葉集

武田 祐吉

全註釋 萬葉集全註釋

武田 祐吉

(改造社版と角川版とがある。本書は主として前者によつたが、増訂されたところは後者によつた。現代かなづかひになつてゐるものは後者よりのものである。)

評釋 萬葉集評釋 (橋田東聲氏、金子元臣氏、窪田

空穂氏に同名の書がある。本書には著者の名を附して引用した。)

評釋 評釋萬葉集 佐佐木信綱

(これも著者の名を附した。)

大成 萬葉集大成

平凡社版

私注 萬葉集私注

土屋 文明

歌人の誕生 萬葉歌人の誕生

澤瀉 久孝

古典大系本 古典文學大系本萬葉集

高木市之助
五味 智英
大野 晋
五

一、本書へ引用の雜誌名で、同名が他にもありなどして疑問をもたれるかと思はれるものの發行所を左にあげておく。

國文學 關西大學國文學會

女子大國文 京都女子大學國文學會

山邊道 天理大學國文學研究室

一、引用の諸書の文章は文字もみだりに變更しなかつた。但、假名に一切濁點を用ゐないものは、馴れない讀者の不便を考へて濁點を加へた。仙覺抄、代匠記などの注の如きである。

一、現代諸家の論攷の題目には「」を加へ、單行本には『』を加へて區別した。

一、上代特殊假名遣については本書中それぞれの場合に當つて述べたが、初學の方の爲に、萬葉ではア行のエ(衣)とヤ行のエ(延)との區別の他に次の十二音の區別があつた事を列舉しておく。

(甲類) 伎、祁、古、蘇、刀、努、比、敝、美、賣、用、路

(乙類) 紀、氣、許、曾、止、乃、非、閑、未、米、余、呂

萬葉集注釋卷第六

萬葉集卷第六

雜歌

養老七年癸亥夏五月幸于吉野離宮時笠朝臣金村作歌一首	并短歌(九〇七—九〇九).....	一一
或本歌三首	(九一〇—九一一).....	一七
車持朝臣千年作歌一首	并短歌(九一二、九一三、九一四).....	一九
或本歌二首	(九一五、九一六).....	二三
神龜元年甲子冬十月幸于紀伊國時山部宿祢赤人作歌一首	并短歌(九二七—九二九).....	二六
二年乙丑夏五月幸于芳野離宮時笠朝臣金村作歌一首	并短歌(九三〇—九三三).....	三三
山部宿祢赤人作歌二首	并短歌(九三三—九三七).....	三九
冬十月幸于難波宮時笠朝臣金村作歌一首	并短歌(九三八—九四〇).....	五二
車持朝臣千年作歌一首	并短歌(九四一、九四二).....	五七
山部宿祢赤人作歌一首	并短歌(九四三、九四四).....	六〇

三年丙寅秋九月十五日幸于播磨國印南野時笠朝臣金村作歌一首 并短歌 (三三—九三七)	六四
山部宿祢赤人作歌一首 并短歌 (三六—九四)	六八
過辛荷島時山部宿祢赤人作歌一首 并短歌 (九四二—九四三)	七六
過敏馬浦時山部宿祢赤人作歌一首 并短歌 (九四六、九四七)	八四
四年丁卯春正月勅諸王諸臣子等散禁於授刀寮時作歌一首 并短歌 (九四八、九四九)	八八
五年戊辰幸于難波宮時車持朝臣千年作歌四首 (九五〇—九五三)	九五
同幸之時膳王作歌一首 (九五四)	一〇一
大宰少貳石川朝臣足人歌一首 (九五五)	一〇二
帥大伴卿和歌一首 (九五六)	一〇二
冬十一月大宰官人等奉拜香椎廟時帥大伴卿作歌一首 (九五七)	一〇三
大貳小野朝臣老作歌一首 (九五八)	一〇四
豐前守宇努首男人作歌一首 (九五九)	一〇六
帥大伴卿遙思芳野離宮作歌一首 (九六〇)	一〇七
同卿宿次田溫泉時聞鶴喧作歌一首 (九六一)	一〇八
天平二年庚午勅遣攢駿馬使大伴道足宿祢等時勅使大伴道足宿祢饗帥家日	

葛井連廣成應聲吟歌一首 (九三)	一一〇
冬十一月大伴坂上郎女名兒山作歌一首 (九六三)	一一二
同坂上郎女向京海路見濱貝作歌一首 (九六四)	一一三
冬十二月大宰帥大伴卿上京之時娘子作歌二首 (九六五、九六六)	一一四
大納言大伴卿卽和歌二首 (九六七、九六八)	一一七
三年辛未大納言大伴卿在寧樂家思故鄉作歌二首 (九六九、九七〇)	一一九
四年壬申藤原宇合卿遣西海道節度使高橋連蟲麻呂作歌一首 并短歌 (九七一、九七二)	一二一
天皇賜酒節度使卿等御歌一首 并短歌 (九七三、九七四)	一二七
中納言安倍廣庭卿歌一首 (九七五)	一三一
五年癸酉超草香山時神社忌寸老麻呂作歌二首 (九七六、九七七)	一三三
山上臣憶良沈痾之時歌一首 (九七八)	一三六
大伴坂上郎女与姪大伴宿祢家持歌一首 (九七九)	一三九
安倍朝臣蟲麻呂月歌一首 (九八〇)	一四〇
大伴坂上郎女月歌三首 (九八一—九八三)	一四二
豐前國娘子月歌一首 (九八四)	一四五

湯原王月歌二首 (九五、九六)	一四八
藤原朝臣八束月歌一首 (九七)	一五〇
市原王宴禱父安貴王歌一首 (九八)	一五一
湯原王打酒歌一首 (九九)	一五三
紀朝臣鹿人松樹歌一首 (九〇)	一五六
同鹿人泊瀬河歌一首 (九一)	一五七
大伴坂上郎女詠元興寺之里歌一首 (九二)	一五八
同郎女初月歌一首 (九三)	一五九
大伴宿祢家持初月歌一首 (九四)	一六〇
大伴坂上郎女宴親族歌一首 (九五)	一六〇
六年甲戌海大養宿祢崗麻呂應詔歌一首 (九六)	一六二
春三月幸于難波宮時歌六首	一六三
作者未詳歌一首 (九九七)	一六三
船王歌一首 (九九八)	一六五
守部王歌二首 (九九九、一〇〇〇)	一六六

山部宿祢赤人歌一首 (1001)	一六九
安倍朝臣豐繼歌一首 (1001)	一七〇
筑後守葛井連大成遙見海人釣船作歌一首 (1002)	一七一
按作村主益人歌一首 (1002)	一七二
八年丙子夏六月幸于芳野離宮時山部宿祢赤人應詔歌一首 并短歌 (1003, 1004)	一七三
市原王悲獨子歌一首 (1004)	一七六
忌部首黑麻呂恨友人賒來歌一首 (1005)	一七七
冬十一月葛城王等賜橘姓之時御製歌一首 (1006)	一七八
橘宿祢奈良麻呂應詔歌一首 (1010)	一八三
冬十二月葛井連廣成家宴歌二首 (1011, 1012)	一八五
九年丁丑春正月橘少卿并諸大夫等宴彈正尹門部王宅歌二首 門部王橘文明 (1013, 1014)	一八八
榎井王後追和歌一首 (1015)	一九一
春二月諸大夫等宴左少辨巨勢朝臣宿奈麻呂家歌一首 (1016)	一九二
夏四月大伴坂上郎女越相坂山時作歌一首 (1017)	一九四
十年戊寅元興寺之僧自嘆歌一首 (1018)	一九五

石上乙麻呂卿配土左國時歌三首 并短歌 (1019—10111)	一九七
秋八月右大臣橘家宴歌四首 (10112—10117)	二〇八
十一年己卯天皇遊獵高圓野之時獲遁走堵中小獸擬獻御在所大伴坂上郎女 作歌一首 (10118)	二一三
十二年庚辰冬十月依大宰少貳藤原朝臣廣嗣謀反發軍幸于伊勢國之時河口 行宮內舍人大伴宿祢家持作歌一首 (10119)	二一四
天皇御製歌一首 (10120)	二一六
丹比真人屋主歌一首 (10121)	二一八
狹殘行宮大伴宿祢家持作歌二首 (10122, 10123)	二二一
美濃國多藝行宮大伴宿祢東人作歌一首 (10124)	二二四
大伴宿祢家持作歌一首 (10125)	二二五
不破行宮大伴宿祢家持作歌一首 (10126)	二二六
十五年癸未秋八月內舍人大伴宿祢家持讚久迺京師作歌一首 (10127)	二二七
高丘連河內歌二首 (10128, 10129)	二二八
安積親王宴左少辨藤原朝臣八東家之日內舍人大伴宿祢家持作歌一首 (10130)	二二〇